

令和元年度福井県教員育成協議会 概要

令和元年11月18日（月）

15:30～17:00

県庁11階教育委員会室

1 開会

2 委員紹介

3 議事

(1) 「教育に関する大綱」、「福井県教育振興基本計画」の検討状況について

- ・資料1-1、資料1-2、資料2に係る事務局説明

(2) 教員研修の精選・効率化について

- ・資料3に係る事務局説明

(3) 令和2年度福井県教員育成指標（案）について

- ・資料4-1、資料4-2、資料4-3に係る事務局説明

〈主な意見〉

- ・(委員) 教員の育成について、新大綱の「引き出す」「楽しむ」は「きたえる」から大きく方向が変わってきたように思う。教え込みでなく、児童生徒が主体的に学べるように、どのように教員を育成していくかを示せるとよい。
- ・(委員) 教員の目標管理設定の際の指標として活用している。ステージごとに各項目の重み付けが見えるとよい。管理職としても、各年代の教員への重点指導内容が見えやすいとよい。
- ・(委員) 働き方改革で部活動が削られることがあるだろう。外部指導者の充実なども一層進めてほしい。
- ・(委員) もう少し簡潔に書けないか。特に内容が同じことを言っている項目はできるだけシンプルにできないか。重点を置く部分にもう少し絞ってもよい。
- ・(委員) 指標は本質的には毎年変わるものではないと思う。表現上の課題について改定は可能。この指標のいいところは、自分の目標をステージに応じて、個人がいろいろ設定で

きる点である。一方で、自分の不足している部分が見えづらいという欠点がある。

- (委員) 教育総合研究所で、各項目を行動目標に落とし込んで各自でチェックしてもらうシートを検討中である。10年経った段階で見直すことができる手立てについて、方法を検討している。現状でも学校では使いやすいかもしれないが、何年間か振り返って個人の強み、弱みがわからないという点をなんとかしたい。
- (委員) 先生方が研修を受けたいという思いがないと、質は落ちていってしまうだろう。県教委が悉皆で研修していた時代から質が落ちないように、個人が主体的に研修を受講できるように、指標を補完するものを作る必要があると思っている。
- (委員) 指標の各項目は、それぞれ研修とどう紐づけられているか。ステージから研修が検索できるような工夫があるとよい。自分の必要な研修を探しやすいとモチベーションも高まるだろう。
- (委員) 各ステージが組織の中の教員の姿を示しているのに対して、採用時の姿は個人のもの。示した項目を全て採用時に持っていることは難しい。採用時の姿の一つの指針としてとらえてほしい。
- (委員) 資料3について、初任者研修を減らすということだが、研修時の面談など大事な内容もあるので、減らして大丈夫か。
- (委員) 夏の初任者研修など集まる研修も重要で、面談などの重要な部分は維持している。普段から初任者同士が横のつながりをもてるように工夫したい。
- (委員) 福井大学のCST事業など、学生と一緒に研修を組み込むこともアイデアとしてあるのではないか。
- (委員) 採用時の姿には、ICTなどデジタルに習熟しておくことを示してほしい。また、第1ステージで求めたいのは、周りに援助を求める力、頼る力である。若い先生の方が勤務時間が一番長いことが課題である。
- (委員) 若い教員が問題を抱え込み、周囲に聞くことができないというのはよく聞く。教員志望者セミナーに参加した保護者が教員の勤務の状況を心配していた。労働環境の解消が進んでいることも示した方がよい。
- (委員) 初任者については、校内研修の指導教員が役割を果たせていれば、うまくいく。指導教員の研修も引き続き必要である。